

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
輸血移植検査学Ⅰ	2年次	必修	講義	1単位（30時間）	反町 彰志 ※

授 業 概 要

輸血検査学における血液型の遺伝や抗原構造、頻度など基本的な知識を学び、輸血検査部の現場状況を踏まえながら実際の輸血学検査の検査意義と手順を学ぶ。

到 達 目 標

- ・血液型の遺伝学や免疫学を理解する。
- ・輸血学の検査の重要性を修得する。
- ・輸血検査に必要な基礎知識を理解する。
- ・輸血検査を取り囲む現在の問題点を理解する。

実務経験のある教員

反町彰志：病院での臨床経験を踏まえ、輸血や移植の知識について概説する。

回	学 習 内 容	担当教員
1	輸血療法の概要：輸血の意義と歴史	反町 彰志 ※
2	輸血用血液製剤の種類と特性：有効期間、保存条件、保存液の作製等	
3	輸血の適応と製剤の選択：血液製剤の使用指針、輸血検査の精度管理	
4	A B O血液型の基礎：血液型抗原の生合成と構造、出現頻度、遺伝形式、亜型と変種、cisAB、キメラ・モザイク、後天性変化など	
5	A B O血液型検査：検査法、オモテウラ不一致等の臨床的意義	
6	R h血液型の基礎：抗原と抗体、各抗原の免疫原性、出現頻度、遺伝形式等	
7	R h血液型検査：検査法、臨床的意義、輸血上の注意、新生児溶血性疾患	
8	その他の血液型：MNS、P1PK、Lutheran、Kell、Lewis、Duffy、Kidd、Diego、I、Xg、白血球抗原、血小板抗原	
9	赤血球抗体検査：規則抗体と不規則抗体、不規則抗体検査法概要	
10	不規則抗体検査の特徴、結果の解釈：生理食塩液法、蛋白分解酵素法、アルブミン法、間接抗グロブリン試験、凝集反応の見方と分類、スクリーニング・同定検査の判定法	
11	タイプアンドスクリーン、直接抗グロブリン試験と間接抗グロブリン試験	
12	交差適合試験：検査の目的、検査法、結果の解釈、交差適合試験の省略と限界	
13	自動分析機による輸血検査（カラム凝集法）、血液媒介性感染症の検査、血小板抗体検査、静脈路への成分採血装置の接続、操作	
14	輸血副作用・合併症：溶血性輸血副作用（血管内溶血・血管外溶血）、非溶血性輸血副作用（輸血後GVHD、輸血関連肺障害、輸血関連循環負荷、他）	
15	母児間血液型不適合と新生児溶血性疾患、自己血輸血	

学 習 方 法

- ・教科書や参考書を読んでしっかりと基礎知識を理解すること。
- ・不明な点は必ずその場で解決すること。

評 価 方 法

- ・月曜試験を実施する。
- ・遅刻や欠席等で月曜試験を受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。
- ・定期試験（70%）及び月曜試験（30%）により評価する。
- ・再試験は月曜試験の内容を合わせて出題し、これを評価する。

先 修 科 目

教科書、参考書

〔教科書〕

最新臨床検査学講座 免疫検査学（著者：窪田哲朗 出版：医歯薬出版株式会社）
配付資料